



深山の里に切なく響く子守唄

ギターの弾き語り奏者で私の師でもある原莊介氏は、作曲・編曲者であると同時に子守唄の研究家でもある。全国を股に子守唄の蒐集を続けてきたが、交通が不便で、なかなか足を運べないため訪問できずにいた一つが、山梨県南巨摩郡早川町奈良田に残る子守唄だ。この六月末、山梨県に畑を持つ筆者が原氏を奈良田に案内した▼北岳、間ノ岳、農鳥岳の白峰三山の登山口にあたり、山男以外に知る人は少ない。車で甲府南ICから一時間半とはいえ、“秘境”に相応しく溪谷に沿った道とトンネルが延々と続く▼奈良田には、奈良時代、孝謙天皇が、八年にわたってこの地で湯治された話が残る。隣の集落とは、方言も異なるという。温泉宿の主人の手配で、地元の五、六〇代の二人のご婦人に子守唄をじっくり聞かせてもらった▼よいよいお よいよいよ しよんが いばんばあは 焼き餅好きで ゆんべ九つ けさ七つ 一つ残して たもとにこいて (入れて) 馬に乗るとて うちようといた (落としてしまった) よお よいよいよ 奈良田平で寒いとかどこだ 日影草里 (ひかげぞうり) と へざかあば よいよいよ お よいよいよ▼もともとの奈良田の集落は一九五三年に西山ダムができた際に、湖底に沈んでしまい、この際、湖畔に移転して作った温泉地が今の奈良田だ。五〇軒ほどが残るが、盆踊りも大分前に取りやめてしまった。お二人も、子守唄を歌って聞かせる孫や子どもたちもいなくなってしまう、と嘆く。記録も大事だが、記録として残るだけでは、子守唄も一段と切なくて悲しい。 (土着菌)